今日集まってくれたみなさん。ありがとうございました。２６８名の香川の小中学生、７名の岡山の中学生のみなさん、サミットＯＢのお二人、mimikaさん、香川大学の金綱先生、カマタマーレ、オリーブガイナーズ、ファイブアローズの選手のみなさん、引率してくださっている保護者・先生方、工代教育長さんをはじめ教育委員会の先生、そして高松市商店街の方々、パレードで応援してくださったりアンケートに答えてくださったりした町の皆さん、本当にありがとうございました。

今回のサミットを実施するにあたって、私たち実行委員は、昨年の８月、「いじめゼロ子どもサミット」の名称について、特に「ゼロ」という言葉が持つ意味について話し合いました。実行委員の間から、「いじめゼロ」を声高（こわだか）に目標に掲げると、いじめられている人が言い出しにくくなるのではないか。」という心配の声もあり、私たちは迷いました。でも、「先輩から受け継いだ「自分たちの力でいじめを『なくしたい』『ゼロにしたい』」という気持ちの方が強かった。だから、「私たちは胸を張って『いじめゼロ子どもサミット』の名称を、先輩方の気持ちとともに継承する。」という結論に達しました。

でも、正直に言うと、今日までは不安でした。私たちは本当に「ゼロ」が実現できるのか。実行委員のみんなと話をしていると、「自分たちの力でやらなければ」という強い気持ちになれるのですが、1人になるとどうしても……。しかし、実行委員会を重ねるうちに、「自分の力で」という部分で肩に力が入り過ぎていたことに気付き、実行委員の仲間と一緒に、友だちや、家族、先生や社会の大人に積極的につながっていきたいと思うようになりました。

そして、今日の「いじめゼロ子どもサミット2018」を迎え、同じ思いを持つたくさんの仲間と行動することと、たくさんの人に見守られていることに、幸せを感じました。しかし同時に、いじめ問題に関心がない人がいることも感じました。だからこそ、「私たちは、見守ってくれる人だけでなく、まだ無関心な人ともつながっていかなければならない」と、今私は考えています。

いじめのきっかけは、ほんの些細なことです。でも、その些細なことをいじめに発展させないために、私たちは、日頃からたくさんの人とつながっていないといけません。でも、クラスメイトが４０人いて、４０人全員と同じように仲良くするのは難しいことです。僕が考える「つながり」とは、友達と友達、先輩と後輩、親と子、先生と生徒、地域のつながりなどのことです。今日、私たちは「つながり」とはどういうことなのか真剣に考えました。そして、「まず感じて、気付くこと」がいじめゼロへの第一歩になることに気付きました。

　サミットは、これで終わりますが、これから私たちはそれぞれ自分の学校にもどり、今日感じたこと、考えたこと、したことを、それぞれの学校で広めていくことになります。そうすれば必ず、私たちの学校はもっともっと楽しい学校になると、僕は信じています。僕は、今日みんなで考えた「つながり」を大切にしていきます。

　今日はありがとうございました。